

私たちの思い

藤 秀彦（甘楽教会牧師）

「こんなに揺れたのは初めてだ」と、生まれたときから地元に住んでいる方は、3月11日の地震についておっしゃっていました。地震が起きたその時は、幼稚園の園児が降園の準備に入っていたときで、子どもたちは全員園舎内にいたのです。揺れが大きくなり、園児たちを園庭に避難させて保護者の迎えを待つ間にも、大きな余震を感じました。不安におびえる子どもたちに寄り添いながら、携帯電話のワンセグ放送を通して入ってくる情報を聴いていると、東北の方々のことを案じずにはいられませんでした。

教会堂は、一見大きく影響を受けたところはないようでした。しかし築後57年になる大谷石造りの建物ですから、よく見ると地震後に石の継ぎ目などに沿って細かなひびが出ています。この間に屋根や窓、天井などの補修をおこなって来ましたが、いずれ建物の状態を調べる必要があると思っていました。

そんな折、7月に関東教区の震災被災支援委員会から、希望する教会に建物の簡易診断を行うとの知らせをいただきました。私たちは簡易診断を申し込み、8月に大宮教会の松下充孝さんに専門家の目で会堂の状態を見て頂きました。その結果、いくつかの問題点が見つかり、補修の必要が指摘されました。会堂外壁の石の表面に風化がみられること、内壁では、窓の周辺や壁に横方向にひびが生じていること、地震により石がずれることで、目地が割れたと思われる箇所もありました。古い設計図と現状を比較してみると、さらに補修が必要な箇所が見つかりました。

同じ敷地内にある幼稚園舎も、木造で最も古い部分は築後58年になります。松下さんからは、屋根瓦にズレが見られるので、屋根の修理が必要とのことでした。屋根については、これまでほとんどメンテナンスなしで使ってきましたから、よく持ちこたえてくれたものです。今後教会堂にどの程度の修理が必要かを知るために、精密診断を受けることにしました。年明けから建物の調査が始まります。

東日本大震災以降私たちの教会では、毎週の主日礼拝で必ず被災された方々や教会を覚えて祈っています。毎年8月最終主日に行っている教会一日修養会では、「東日本大震災～私たちにできることを考えよう」を主題としました。キリスト者として震災に向き合ってきたそれぞれの思いを出し合い、共有するとともに、私たちは被災された方々とどう関わるができるかを共に考えました。各々の立場から震災に向き合った経験を聴き、グループに分かれて協議の時を持ちました。協議では、震災直後に大変な困難を経験された障碍を持つ方々のことに気づかされたり、具体的な支援活動への提案もなされました。

この修養会で提案された意見から、教会では2年間の計画で支援献金を募る活動を始めました。1人1日10円、毎月300円から始める献金です。決して大きな働きはできませんが、それでもこの課題を長く担い続けるという教会の意志をあらわしていきたいと思っています。

東日本大震災救援募金へのご協力を！！

募集期間 2011年7月1日から2015年3月31日

振込先 00110-6-639331 名義 日本基督教団東日本大震災救援募金

目標額 10億円

西上信義（水戸自由ヶ丘教会牧師）

水戸自由ヶ丘教会の復興を神さまに感謝します。

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は「神は我々と共におられる」という意味である。マタイ 1 章

1 私たちの水戸自由ヶ丘は、2010年4月に西上信義ご夫妻をお迎えしました。18坪の礼拝堂と10坪の牧師館を大切に育て、礼拝と伝道をしてきましたが、36年の間に牧師館がとても痛んでしまいました。教会員の祈りと献金と教区の144の教会・伝道所の祈りと献金に支えられて、やっと10月に補修をしたところでした。ところが、2011年3月11日午後2時45分、思いもかけない、東日本大震災に根底から揺れる経験をしました。屋根が壊れ、礼拝堂の外壁と内部に大きな亀裂が入り、天井がひずみ、下水施設が破損しました。今後の建物の危険を指摘されました。

2 早々に、教区の飯塚牧師、松下設計が問安と調査においでくださりました。茨城地区久保田地区長がお見舞いくださいました。やがて、教団の雲然書記、北被災支援委員長、大三島幹事がお見舞いください、復興支援の祈りをくださいました。どんなに、信仰の励ましを頂いたか分かりません。

関東教区の秋山議長、支援委員会の祈りを受け、教会の8名の会員の祈りと献金、共済組合のお見舞金、教団と教区の支援を受けて復興工事が行われました。10月-11月にかけて、傷んだ外壁がガルバニウム鋼板に覆われ、天井が修理され、内壁が補修され、屋根が修復されました。牧師館の傷んだ壁も補修されました。最後に排水施設が補修されました。

被災当時を思うと夢のようでした。

「神さまが思いもよらない、大きな業をしてくださりました。」教会員田村姉。

「復興されて、これから10年の礼拝、牧会、伝道の希望が与えられました。」教会員野上姉。

3 神さまの大きな福音の働きを感じます。その頃、茨城・涸沼で被災された一人の青年が、聖書を持って礼拝に来られました。そして、被災の悲しみと孤独を乗り越えて、新しい人生に導かれるためにクリスマス礼拝で洗礼を受けます。12月5日に、西上工務店、富士企業から、飯塚牧師、松下支援委員に来ていただいて、感謝して引渡を受けました。アドベント礼拝を信仰の光を灯して、4週歩みます。皆さまのお祈りに支えられています。水戸自由ヶ丘教会の復興記念礼拝 2012年1月22日(日)午後4時-5時半で、献げます。関東教区の方々、と茨城地区の教会の方々と共に深く感謝して献げます。どうぞ、おいでください。皆さまと共に、奥羽と東北教区の教会と共に、希望と回復の2012年に向かいます。



水戸自由ヶ丘教会会員 9名

水戸自由ヶ丘教会 被災復興感謝礼拝

2012年1月22日(日) 午後4時

説教 飯塚拓也牧師 祝辞 石橋秀雄教団議長、秋山徹教区議長